



この地域で暮らす外国人にお話を伺い、ご紹介するコーナーです。



いっぱい間違えて、どんどん失敗して、たくさん学んでほしい



ドリス カルデロン ヨコイさん (フィリピン出身)

平日は公立の小学校でALT(外国語指導助手)として働き、土曜日も隔週で、中学生に英語を教えています。家でぼーっと過ごすのは苦手で、料理、ギター、散歩、ボランティア活動など常に何かをしたい性格です。空いた時間はバスと地下鉄を乗り継いで、片道1時間の娘の家まで、4才と6か月の2人の孫たちに会いに行きます。合わない時間が長くなると、顔を忘れられてしまうので、どんなに忙しくても月に2～3回は会うようにしています。やっぱり孫たちはかわいいですし、家事や育児に奮闘している娘のことを少しでも助けてあげたいという親心でもあります。

孫たちとは、ブロックで車を作ったり、公園でかくれんぼやすべり台をしたりして遊んでいます。時々、すべり台に砂や水をかけていたずらする子がいます。でもママたちは、おしゃべりに夢中で気がつきません。私は「一緒にきれいにしようね」と言って止めさせます。フィリピンでは、自分の子でなくても、周りの大人たちが注意し、みんな子どもたちを育てるといった考えが当たり前ですが、もしかすると、なんであの人がうちの子に注意するの、と思われているかもしれません。他人の子を親の前で注意

することは難しいなと思います。

日本で暮らしてもう30年。フィリピンよりも日本の生活の方が長くなりました。海外に行って日本に戻って来た時は「あー帰ってきたな～」とホッとします。私は自身の経験から、異文化の中で暮らすために一番大切なことは、やっぱりコミュニケーション力だと思っていますので、今の仕事にやりがいを感じています。日本人は恥ずかしがり屋で、大人も子どもも間違えることを恐れず、いつも「間違ってもいいよ。だってあなたたちが間違えてくれなかったら、私たちの仕事がなくなっちゃうんだから!!」と伝えています(笑)。私自身もたくさん間違えながら日本語を学びました。孫たちも、教える子どももどんどん失敗して学び、視野の広い大人になってほしいです。



▲ドリスさんとお孫さんたち



11月10日・11日開催

ワールド・コラボ・フェスタ2018に参加しました!

国際交流・国際協力・多文化共生に携わる団体や企業が参加する「ワールド・コラボ・フェスタ2018～発見!体験!世界大交流祭～」が名古屋・栄で開催されました。NICはブースの出展とステージ発表を行いました。

NICブース① 届け!みんなの笑顔とメッセージ

～カンボジア・ネパール・アフガニスタンのことばでカード作り～



▲ネパール出身の外国人講師からネパールの子どもたちの様子について話を聞きました。

外国語のメッセージカードづくりを通し、読み書きができない気持ちを体験したり、各国の識字率を塗り絵で示すワークショップを行いました。学校に行けない子どもたちに向けて参加者が心を込めて作ったメッセージカードは、「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会の支援先であるカンボジア、ネパール、アフガニスタンの寺子屋で子どもたちに届けられます。

NICブース② 使ってみよう!『やさしい日本語』

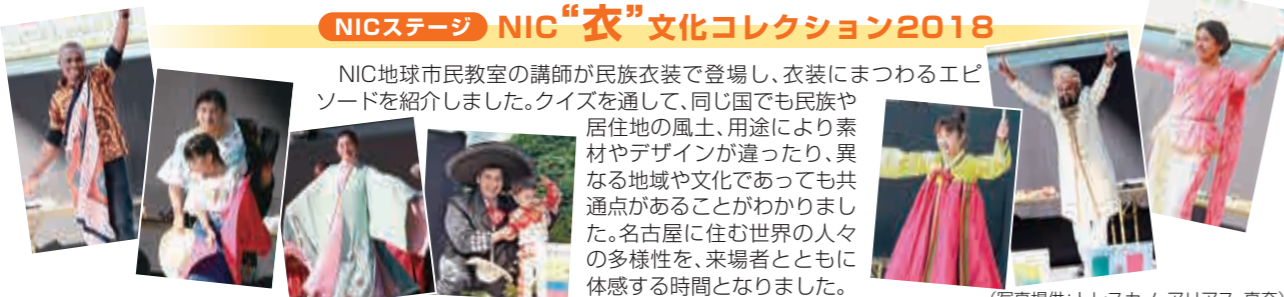
「NICやさしい日本語防災カルタ」やクイズを通して「やさしい日本語」について楽しく学びました。参加者からは、「意識してやさしい日本語を使ってみようと思う」という感想がありました。



※「やさしい日本語」簡単な単語や表現で作られている、外国人にも、高齢者にも、子どもにも、障がいのある方にもわかりやすい日本語です。

NICステージ NIC「衣」文化コレクション2018

NIC地球市民教室の講師が民族衣装で登場し、衣装にまつわるエピソードを紹介しました。クイズを通して、同じ国でも民族や居住地の風土、用途により素材やデザインが違ったり、異なる地域や文化であっても共通点があることがわかりました。名古屋に住む世界の人々の多様性を、来場者とともに体感する時間となりました。



(写真提供:トレスカノ アリアス 真奈)



～国際協力・ネパール編～

ネパール女性の現状を希望の歌にのせて伝えたい

特定非営利活動法人 ゴスペルエイド 代表 佐藤 美香さん

テーマ:人権(女性)



▲パディとのゴスペル練習風景

【少数民族パディとゴスペルCDを共同制作】

人身売買や強制売春に苦しむネパールの少数民族・パディの救出、自立を支援するゴスペルエイド。代表を務める佐藤美香さんは、ゴスペルディレクターとして活躍する自身の経験を活かし、パディ族の少女たちとともに1枚のCDを制作しました。佐藤さんが作詞作曲した楽曲「I'm Free」を現地保護施設で生活するパディたちが歌い、その歌声を収録。イベントやホームページでCDを販売し、収益の一部を現地の支援団体へ寄付しています。

収録時は、パディたちの独特の歌い方とゴスペルとを調和させることに苦戦しましたが、「彼女たちから、何にでも挑戦したいという好奇心と目の輝きを強く感じました」と佐藤さんは振り返ります。

かつてカースト制で不可触民とみなされていたパディ族。制度が廃止された今もその名残から、教育や雇用の機会を得ることができず、社会からとり残された存在です。今日の食費のために、10歳に満たない少女が自分の身を売らなくてはならない。現状を知った佐藤さんは「同じ年頃の娘を持つ親として何かしなくては」と突き動かされる思いで今の活動を始めたと言います。

ゴスペルは希望の歌。歌うことでパディ自身の心も解放されてほしい、そしてパディの現状を多くの人に知ってほしいと佐藤さんは語ります。

リーダーズ・メッセージ

支援活動では、人間関係でつまづいたり、計画通りにいかず、悔しい思いをすることも多々あります。ただ、人の人生を変えるということは一筋縄ではないもの。そういう覚悟を持つことも続けるために大切だと思います。



【コーヒー焙煎で少女の自活を支援】

佐藤さんたちは、ゴスペルを通じた活動のほか、愛知・岡崎で支援カフェをオープン。現地のパディがバックグランドしたコーヒー豆を輸入しカフェで販売しています。現在はネパールでの焙煎所設立を計画し、資金目標も間もなく達成予定です。現地の社会で働く先がないのなら、自分たちで雇用を生み出そうという考えです。

「この10年で、救出されたパディが自活できるようになることが目標」と佐藤さん。売春以外の選択肢でパディの未来が変われば、とりまく社会もおのずと変わるはずと信じて支援を続けます。

特定非営利活動法人 ゴスペルエイド
Web <https://gospel-aid.org/>
Facebook @aidbaddihome 検索



名古屋市とロサンゼルス市は今年で姉妹都市提携から59年目を迎えました。姉妹都市となった翌年から続いている『ロサンゼルス交歓高校生事業』をはじめとする、ロサンゼルス市との交流をご紹介します。



名古屋の象徴「シャチ」と、ロサンゼルスの象徴「グリスリーベア」をイメージしたキャラクターです。

■ロサンゼルス交歓高校生事業

1959年4月1日に、名古屋市とロサンゼルス市は、お互いにとって最初の姉妹都市になりました。来年で姉妹都市提携60周年を迎えますが、これまでに様々な分野で交流を続けてきました。中でも、『ロサンゼルス交歓高校生事業』は提携翌年から続いている代表的な交流事業で、名古屋市とロサンゼルス市の高校生を交互に派遣し合い、ホームステイなどを通じて相互理解と友好親善を促進することを目的としています。名古屋市からロサンゼルス市へ派遣された高校生は、翌年にロサンゼルス市から名古屋市へ訪問する高校生のホストファミリーになります。今年



▲ロサンゼルスにて体験プログラムに参加する生徒たち

は4名の名古屋市の高校生が2週間、ロサンゼルス市に滞在しました。

■ロサンゼルス日系人の親善役、華やかな二世週クイーンたち

ロサンゼルス市のリトル東京地区では、毎年8月に「二世週祭」という盛大なお祭りが開催されます。このお祭りは、1934年に日系2世(アメリカ合衆国で生まれた最初の世代)が始まりました。期間中には、様々なイベントがあり、特に「コロネーション(戴冠式)」という二世週クイーンの出選会がとても人気です。選ばれた二世週クイーンたちは、今年10月の名古屋まつりのパレードやオアシス21で開催されたシスターシティ・フェスティバルのステージに出演してくれました。



▲名古屋まつりの姉妹友好都市親善パレードの様子

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

Web <http://nsca.gr.jp/> Facebook [nagoya.sistercities](#) 検索